

# 西条ロータリークラブ 週報



インスピレーションになろう

週報 2019年2月28日 2月第3例会

例会日 木曜日 グランラセーレ東広島

事務局 東広島商工会議所会館3階

会長 山田 謙慈 幹事 奥本 哲之



## 本日の例会 社会奉仕委員会卓話 第2659回

- 12:30 点鐘 (山田会長)  
国歌斉唱 「君が代」  
ロータリーソング 「それでこそロータリー」  
忠恕への誘い (平賀職業奉仕委員長)  
お客様の紹介 (廣幡副会長)  
会長時間 (山田会長)  
退会の挨拶 (坂田会員)  
お祝い時間  
☆連続100%出席者  
今谷会員 (2月6日) 44年  
寺川会員 (2月27日) 22年  
上田会員 (2月17日) 8年  
☆米山功労者表彰 島会員 (第1回)
- 12:40 会食時間  
出席報告・スマイルボックス発表  
委員会報告  
幹事報告
- 13:00 本日のプログラム  
【西条ロータリークラブ社会奉仕委員会55年のあゆみ 新開 洋一 委員長】
- 13:30 点鐘 (山田会長)

### 《幹事報告》

★次週3月7日  
(木) 例会終了  
後、西条RC奨学生  
の面接を行います。  
関係者の方は  
宜しく願います。

## お知らせ

### ★今後の例会スケジュール

- 3月7日(木曜日) 新入会員卓話 岩畔 忠 会員
- 3月14日(木曜日) 東広島市都市部 加藤博明部長
- 3月21日(木曜日) 例会休み(春分の日)
- 3月28日(木曜日) 会長エレクト ペッツ報告 小早川会長エレクト
- 4月4日(木曜日) 優秀職業人表彰式 職業奉仕委員会担当
- 4月6日(土曜日) 花見例会 西条駅北口集合 於:蔵処 樽(西条栄町)

### 《ペッツ (PETS)とは》

PETS (Presidents-Elect Training Seminar) 会長エレクト研修セミナーのこと  
このセミナーは、ガバナーエレクトが、ガバナーと協力して実施する、次年度のクラブ会長  
全員のための研修、教育プログラムのことである。



皆さんこんにちは、ご健勝のことお喜び申し上げます。

この前の日曜日、NHKで平成史スクープドキュメント第5回“ノーベル賞会社員”～科学技術立国の苦闘～という番組を見ました。

2002年にノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏の独占取材から、科学技術立国ニッポンの苦闘を描いていました。田中氏は、東北大学工学部へ進学し、卒業後は大学院へ進学せずソニーの入社試験を受けるも不合格、大学の恩師の勧めで島津製作所に合格できたとのこと。

この島津製作所ライフサイエンス研究所で研究に没頭し、2002年43歳の時にノーベル化学賞を受賞。受賞理由は「生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発」でした。これにより田中氏は一躍時代の寵児となりました。しかし、ノーベル賞につながった発見は「単なる偶然なのではないか」という周囲の声に葛藤し続けてきた同氏は、受賞以後の16年間メディアとの接触を避けておられたようです。そして再び表舞台に登場したのは昨年2月科学誌・ネイチャーに1編の論文が掲載されてからです。アルツハイマー病を発症すると脳に溜まるタンパク質を検出することに成功し、「0.5mlの血液から発症20年前に早期発見できる」とのことです。これには世界的な研究グループが関与しており、従来のPETや髄液の検査に匹敵するとの結果でした。これは素晴らしいことで、早期にアルツハイマー病の発症を予測できればその予防的治療も進歩していくことが期待されます。

しかしこの番組の中で他に大きな問題を指摘されています。それは「研究者のポスト削減」「研究投資の停滞」「補助金の削減」「論文数の減少」などで、科学技術立国の凋落とまで言われています。平成の時代に日本人のノーベル賞受賞が多かったのは昭和の遺産だ、との評価もあるようです。田中氏自身は研究において他の研究者より比較的恵まれており、受賞当時の社長から年間1億円の研究費を支給され、その後2009年からは最先端研究開発プログラム（FIRSTプログラム）で全国から選ばれた30の研究の一つとして年間7億円の支援を受けているとのこと。それでも国内のポストで意欲があっても居場所がない、また限られた資金で研究を継続せざるを得ない多くの研究者を代弁しての発言は大変印象的でした。とはいえ、今回の同氏を中心とするグループの研究成果は非常に価値の大きいものであり、2度目のノーベル賞受賞を十分期待できるものと考えご紹介いたしました。

ありがとうございました。





昨年7月に入会させて頂きました 森哲也でございます。いつもお世話になり有難うございます。

先々週行いました、オペラ公演「仮面舞踏会」では、会員の皆様からのお力添えや、

多くの皆様にご来聴頂き、心より御礼申し上げます。

私は、この公演に指揮・演出という立場で、この仮面舞踏会に臨みました。初めてこの大作を手掛け、音楽面でも大きな不安もありましたが、出演者やスタッフ約150名の力に助けられ、手前みそですが、良い公演となり、次への大きな足掛かりとなる良い公演となりました。お陰様で二日間の公演で1300名のお客様にお越しいただき、盛会裏に幕となりました。皆様に心より御礼申し上げます。

さて、新入会員としてお話しさせて頂く場を賜りましたので、自己紹介をさせていただきます。昭和46年(1971年)5月5日、端午の節句、子供の日に西条本町に生を受けました。

誕生日が祝日という事で、子供の頃は毎年、クラスの友人などを呼び、誕生会を開いたことがとても懐かしく思い出されます。

先日こちらで、“年男の抱負”を、お話をさせて頂きました通り、今年五月で年男48歳となります。星座はおうし座で、血液型は大雑把なO型。

西条幼稚園から西条小学校、西条中学校、城北高等学校、東京音楽大学、イタリア国立ミラノヴェルディ音楽院にて学び、最終学歴は賀茂自動車学校です。

幼稚園の時は、割と“えこひいき”していただいていたようで、お遊戯会では必ず良い役をもらっておりました。しかし、気の弱い私は、いつも本番前に「出たくない」と“ゴネル”タイプで、周りの大人を困らせていたようです。

小学校の頃の思い出深い事と言えば、小学三年生の学習発表会の事を思い出します。学習発表会で私達は、合唱を歌う事になっておりました。本番前日に登校すると、すぐに担任の先生に呼ばれました。

「ピアノを演奏する音楽専科の先生が、急病で倒れられた」

「君が明日、ピアノ伴奏をするように」と。

音楽の先生の身体は心配でしたが、もっと困ったのは、一回も弾いたことのない曲を弾かなければならなくなったことでした。当時の私は、特にピアノがとびぬけてうまかったわけでもなく、本当に困ってしまいました。母がピアノ教師をしていたので、担任の先生は、そこに頼りたかったのだと思います。担任の先生が、家で練習する為、家まで車で送ってくれました。早速母と共に“譜読み”をはじめました。(“譜読み”とは、弾いたことのない曲の楽譜を読んで、音程やリズムを頭に入れ、スムーズに演奏できるための指使いを決め、弾けるようになる作業の事を言います)

暫く練習をした後、母はお弟子さんのレッスンがある為、私は近所のピアノのあるお宅へ行き、そこで夜まで練習をさせて頂きました。次の日、ぶつつけ本番がやってきました。演奏がうまく行ったかどうかは、あまり記憶にありませんが、何とか舞台は終わりました。ホッとして、嬉しかったのもつかの間、「そりゃ、お母さんがピアノの先生だから弾けて当然…」といった、悪口めいた言葉がどんどん入ってきて、たった一日ですが、プレッシャーを感じながら頑張った事が崩れていくようで、本当に傷つき、悲しかった事が今でも鮮明に思い出されます。もちろん褒めて下さった方も多くおられました…。

ここで学んだ事は、プラスのパワーよりマイナスのパワーの方が強いという事で、現在でもそのような状況はありますが、打ち勝っていくよう努力しています。

高学年になると、父がバレーボールの指導をしていた影響でバレーボールのスポーツ少年団に入団しました。背が小さい私は、今でいう“リベロ”のような、固定のポジションでしたが、レギュラーの座をつかみ、バレーボールがどんどん好きになって行きました。

その時の監督は、前教育長の下川聖二先生でした。お亡くなりになった事が悔やまれます。その下川先生が中学の頃、私の父にバレーボールを習ったと言うことで、世代を超えたすごいご縁に、神秘を感じています。その延長で西条中学でも、バレー部に入部し、セッターとして楽しんでいました。その部には優秀なアタッカーがたくさんおりましたので、全日本の選手らがするようなコンビバレーを目指して、日々研究し練習していました。楽しい青春でした。市の大会では優勝候補とよく言われましたが、一回も優勝することなく、最高、準優勝で、次の地区大会でも準優勝で、何とも微妙な立ち位置でした。でも、思い出深いのは、その時の監督は、バレー未経験の方だったので、部員同士で練習メニューを考え、あみ出し、そして、それに一生懸命取り組んだことです。もし、私のバレーの道に進める身長があった



なら、その道に進みたいと思うほど、バレーボールが好きでしたが、残念ながら、身長が小さかったので、高校時代にはバレー部には入部せず、帰宅部にて高校生活を謳歌しました。

城北高校に入学。男子校という事もあり、さっぱりとした人間関係、大変好きな校風で、入学と同時にバンドを結成、ドラムを担当し、練習やライブなどの活動していました。

学校では禁止されていた当時のディスコ通いでリズム感を磨き？、きらびやかな照明に心身躍らされていました。ディスコ内の照明にも大変興味があり、今のオペラの演出の照明プランに大変役立っています。

公務員の父からは考えにくいですが、家族の誕生日などは、一家でディスコにてパーティーをしたこともあり、今思うと「よく、あの父が…」と、不思議に思う事があります。

そんな活動の中、将来は弁護士さんになりたいと思いつつも、ディスコ音楽やライブハウスのプロデューサーになりたい…というぼんやりとした夢を抱き、どのような方法でその職業になれるのだろう…と考え始めました。

高校二年生に上がる前の春休みに、学校からイギリスにホームステイさせて頂けることになりました。アメリカとイギリスのどちらかを選べる選択肢がありました。私は、アメリカに行きたい！と思い試験を受けましたが、残念ながらイギリスという結果となりました。英語はちっともマスターしませんでした。折に触れて行われる、ホームパーティーなどで、ピアノを演奏させて頂く機会を持ち、言葉は通じなくても、音楽は万国共通語であると確信しました。そして、一番の収穫はイギリスでのヨーロッパの人々、文化に触れた事で、後の人生の選択に大きくかかわる事となりました。

イギリスで面白かったのは、ある小道を一人で歩いているときに、前から、パンクロックのお兄さん三人とすれ違わなければならない状況となってしまいました。そのお兄さんたちは、緑や赤に染めた髪の毛を見上げるほど高く盛り上げ、全身黒皮の衣裳に身を包んだ方々で、私は身ぐるみはがされる、「もう終わった」と恐怖を覚えました。

「引き返そう」ととっさに思いましたが、逆に背中から追われたら…という恐怖もあり引き返せず、目を合わせないようにすれ違おうとしました。その瞬間、「Excuse me」と紳士的に声をかけてくれ、丁寧にスペースを確保しながら通り過ぎてくれました。人は見かけで判断してはならないと教わっていたもの、凄く見かけで判断して、恐怖を覚えていた私は、思わず笑いがでて、「おお、これが大英帝国の歴史が産んだ紳士！」とつぶやいてしまいました。そんなイギリスの文化に触れ、ヨーロッパに大変興味を抱くようになりました。最初は残念だったイギリスでしたが、イギリスが僕を引き寄せてくれた！とうれしく思い、アメリカの選考に漏れたことも運命が導いてくれたんだ！と神がかった事を思った次第です。

帰国すると、高校では、進路についての話が頻繁に出るようになり、色々な決断を迫られるようになりました。すっかり弁護士さんになりたかった事など忘れ去り、音楽プロデューサーへの夢、音楽が万国共通語であると感じた事から、音楽の道に進みたいと思うようになり、両親に音楽大学に進学したいと伝えました。その時は、既に姉が東京の音楽大学に通っており、自分にとって音大が近いものとなっていました。しかし、両親は、食べていくのに大変だという事で“Yes”と言ってはくれませんでした。

ただ、母は、本人も音楽大学卒業で、お弟子さんも沢山音大受験させていたので、もし、受験するならば、一刻も早く、楽器の演奏の準備、その他専門的な分野に取り掛からなくてはならない事を知っていました。

小学校でバレーボールを始めてから、ピアノレッスンには通っておらず、独学でピアノを楽しんでいる程度で、とても音大を受けるレベルにはない事も、母は熟知していました。私は真剣でした。あまりに私が、音大進学の話をするので、母が父を説得してくれ、レッスンに通わせてくれました。その頃、演奏力も指導力も高いと評判であった広島市内のピアノの先生と希望大学で教鞭をとる東京の先生の門を叩き通い始めました。「熱意は人や物を動かす」と、感じた瞬間でした。

その他、音楽理論、ソルフェージュと言われる音楽能力の基礎レッスン、声楽など専門的なレッスンに毎日通い、その内容が面白く、どっぷりとはまっていきました。その分野の練習や研究は、興味深くて苦しいものではなく、いくら時間を使っても飽きる事はありませんでした。

いくら追い求めても手に入らない事のなんと多い事か…。そう思いながらも、それでも音楽に夢中になり、学校を休んでは、ピアノの練習に没頭していました。東京の先生のところ、他の音大受験生や、既に音大に通っておられる先輩方の演奏を耳にするたび、自分の実力のなさに情けないやら、奮起するやら様々な感情に取り囲まれる日々でしたが、音楽の魅力がすべてを前向きにさせてくれました。

その頃にはディスコ音楽や音楽プロデューサーなどはなんのそので、クラシック音楽にどっぷりはまり、実力がないなりに、演奏家になりたいという思いを募らせていました。

何とかギリギリ、びりっけつで入学試験を通過することができ、練馬区氷川台の演奏可能なマンションに姉と共に生活し、音大生活が始まりました。

音大は、男子校と違い、9割が女性でパラダイス！でした。しかしそのパラダイスの雰囲気は女子高そのもので、戸惑う事も沢山ありましたが…。

音大は一応大学なので、音楽以外の一般教養の授業の単位も必要でした。その授業は休めるだけ休んで、ぎりぎり単位を頂き、その間、練習に没頭し音楽漬けの毎日で充実した生活でした。しかし、音大に通う一部の学生以外は意外に演奏家を目指していない事に気づきました。バブル期という事もあり、音大から一般企業に就職する事も多く、目指している方向も各自違っていました。どの学生も演奏力アップに力を入れていましたが、演奏家になりたい…という発言をするのは少し照れ臭い雰囲気もありました。有り難いことに、私の門下の先輩や後輩は優秀な方が多くて、演奏家になる為に力を注いでいる人がいっぱいでした。そこでは、もちろん夢のような話もしますが、そのために何をしなければならぬか、心構え、練習の方法など、内容の深い会話が常に交わされていました。実際国内外のコンクールで優勝された方や、すでに演奏活動をしている学生もおり、私もそれに触発され演奏家になるという道の夢を追い求め、邁進していきました。

やはり、現場で覚えるのが一番で、少しずつ頂いた演奏の機会を大切に、失敗と成功を繰り返しながら、大学在学中に400回の本番を経験させて頂きました。

その本番は、ピアノのソロの演奏、他の楽器との共演（室内楽という）、声楽家との共演、オーケストラの中でのピアノパート、オペラの稽古ピアノ、プロオーケストラと合唱での共演、オペラの指揮など、多岐にわたる本番でしたが、今の活動にすべて役立っています。

大学院に進学するかどうか、迷ったときに、師匠から「お前は変わってるから、外国へ行け」との有り難い？お言葉を頂き、留学を考え始めました。

学びたい国は… 当時から先進国としてアメリカは芸術教育のレベルも高いと評判でした。しかし、過去にイギリスで経験したヨーロッパを思い出し、クラシック音楽の生まれた、ヨーロッパに的を絞りました。

フランス音楽に興味があったので、パリ留学について調べておりましたら、なぜか、イタリアの情報ばかりが入ってきて、この声はまさに、イタリアに引き寄せられていると確信して、イタリアを留学地に決定しました。

その頃、音大を卒業した姉が、藤原オペラ歌劇団の研究生として勉強をしており、オペラが私の周りに渦巻いていました。仕事としても、オペラの現場に入らせて頂いていたので、これはまさにイタリアが僕を呼んでいる…などと、またトンチンカンな事を思い、イタリアへ飛び立ちました。

イタリアではすぐに、素晴らしい演奏家のピアノの師匠に見て頂けることとなり、世界的に活躍している複数のオペラ歌手の下でお仕事をさせて頂けることになったり、演奏のチャンスも沢山いただいたり、食事も口に合うし気候も快適で、本当にイタリアを選んでよかったと実感していました。でもせっかくヨーロッパにいるのだから、と、パリへ4か月短期留学しようと、ミラノから出向きました。

パリも素晴らしい都市で、文化の薫り高いさすがなパリでしたが、すぐミラノが恋しくなってしまうました。パリはたまに来るところ、と決め、パリでの師匠にもミラノからまた来ますと伝えイタリアへ帰国。この場合帰国とは言わないと思いますが、日本よりミラノがふるさと位思っていたのです。

その後、イタリア国立ヴェルディ音楽院の受験をし、卒業まで本当に良い勉強をさせて頂きました。音楽院の建物は、昔の修道院で、趣のある、素敵な空間でした。

そこでの師匠はイタリア国内、トップクラスのピアニストで、ずいぶん厳しい方で、最初の一年は、本当にピアノのテクニックを鍛えるだけのレッスンで、芸術も何もなかったものじゃないトレーニングばかりで、いつ辞めようか、といつも思っていました。イタリアに着いたばかりの頃からお世話になっている先生にも、レッスンをしていただいていたので、それだけが救いでしたが…。

ただ、一年たってみると、自分でいうのもなんですが、やはり目に見えるほどの上達ぶりで、本当にその厳しい先生に感謝の念が沸き上がり、尊敬し始めたところ、凄くバランスの良いレッスンをして下さるようになり、心と心のつながりの大切さを痛感しました。

イタリアで手に入れた宝は、イタリア人との多くの交流を持てた事とともに、日本からの多くの分野の留学生と知り合ったことです。建築、料理、ファッション、文学など。彼らの鋭い感性を、ワインと共に味わいました。

音楽院を卒業した後、二年間研究助手として、後進の指導のお手伝いをさせて頂きながら、演奏に取り組んで参りました。その間にオペラについての研鑽を本場の歌手らのもと勉強させて頂き、広島へと居を移しました。

帰国後は、ピアノの演奏や、指揮・オペラ演出などの演奏活動、そして指導や、音楽会の企画・立案・運営などに携わっております。

昔は、芸術の世界では、下り列車に乗って演奏家がやって来るという時代でしたが、

上り列車にての音楽発信をしようと、今も精進を続けています。

今年は、東京、名古屋、新潟、など県外での演奏の機会も頂いており、





ますます精力的に活動していく所存でございます。

この卓話の機会を頂き、皆様には大変つまらない話をしてしまいましたが、自分自身、若い頃経験して思っていたことなど思い出すきっかけとなり、活力が湧いてまいりました。

大人になると、諸般の事情や雑多な日常に追われ、日々が過ぎてまいりますが、もう一度、あのころに感じた思いを胸に抱き、心新たに歩んでいきたいと思えます。この場を頂戴したことに心より感謝を申し上げます。

また、このロータリークラブにご縁を頂き、周年行事の担当をさせて頂けるとの事、頑張っただけでまいりたいと存じます。

引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。ご清聴有難うございました。

## 例会通信 (2月21日例会)

### ★結婚記念日

三名田会員 (平成11年2月3日) 20周年



1月31日例会にメイクアップに来られました北崎隆様(東京中央RC)より、バナーが送られてきました。



## スマイル・ボックス (Smile Box) 2月21日例会出宝分

本例会:16,000円  
(今年度累計金額622,000円)

★本田会員:IM(インターシティ・ミーティング)で発表しました。

★奥本会員:2月9日、IM(インターシティ・ミーティング)にて、ロータリー財団地区補助金事業の事例発表をしました。

★安武会員:2月10日、森会員の監修指揮によるオペラを鑑賞し、感動しました。

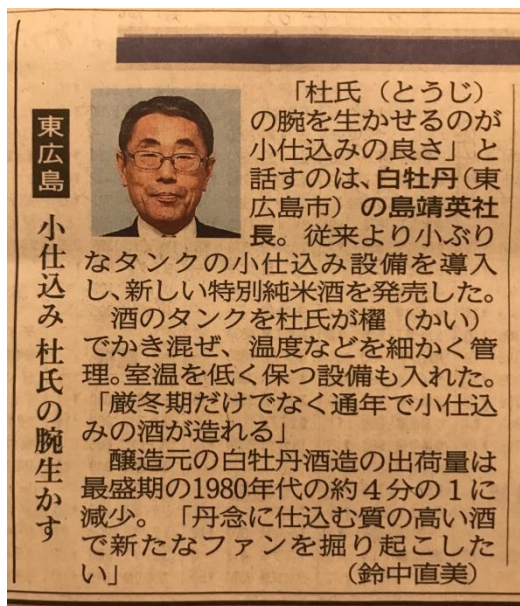
★三木会員:森会員の仮面舞踏会を観賞しました。最高でした!

★坂田会員:森会員のオペラ、感動しました。ありがとうございました。

★森会員:オペラ仮面舞踏会、会員の皆さま、御来聴ありがとうございました。お陰様で大成功となりました。



★島会員：新製品、白牡丹 Paeon(ピオン)の発売にあたり、中国新聞の東広島版と経済面に取り上げて頂きました。



**Paeon (ピオン)**  
 「しぼりたてのフレッシュなお酒で食卓に小さな幸せを」をコンセプトに醸した新たな白牡丹のお酒です。601号酵母が生み出す酸味やシャープな味わいの酒を、しぼったすぐのフレッシュな状態で瓶詰めしました。



**出席報告 (2月21日例会)**

例会出席は正会員の最も基本的な責務で、会員が互いに胸襟を開いて親交を深め、奉仕を語り合う機会です。会員は、クラブで定めた前半・後半の6ヶ月間に、自己の所属クラブでは、それぞれ30%以上出席し、且つ、年間通算の出席率は出席補填を含めて50%以上であることが必要です。また、例会は概ね1時間ですが、少なくともその60%は会場に止まる義務があります。

**出席の補填 (メイクアップ)**

クラブの例会に出席できなかった場合には、例会前後の14日以内に他のロータリークラブの例会に出席すること。出席補填は、訪問先での出席証明を受け取り、自クラブに郵送または直接幹事に提出または申告することで完了します。

◆会員数 36名      ◆出席者 26名  
 ◆来訪者 0名      ◆欠席者 8名  
 ◆免除者 2名  
 ◆1月31日の欠席者 9名  
 ◆メイクアップ 9名  
 ★出席率 100%  
 ★通算出席率 99.68%

**近隣ロータリークラブ 休会/例会変更 (例会変更時のみ、受付メイクアップ可能)**

受付メイクアップ (12:00 より 30 分間) の際は会員証を呈示し、氏名を自署 (代理者不可) する。

同時間2カ所以上で実施の場合、1カ所でのメイクアップのみ有効。

- ★3月 4日(月) 東広島21RC (休会) 受付なし
- ★3月 7日(木) 広島西RC (例会変更) 受付：ANAクラウンプラザホテル広島
- ★3月 7日(木) 広島安佐RC (例会変更) 受付：リーガロイヤルホテル広島
- ★3月11日(月) 広島廿日市RC (例会変更) 受付：広島サンプラザ
- ★3月13日(水) 広島空港RC (例会変更) 受付：広島エアポートホテル
- ★3月18日(月) 東広島21RC (休会) 受付なし
- ★3月18日(月) 広島中央RC (例会変更) 受付：リーガロイヤルホテル広島
- ★3月18日(月) 広島廿日市RC (休会) 受付：広島サンプラザ
- ★3月19日(火) 東広島RC (休会) 受付なし
- ★3月20日(水) 広島空港RC (休会) 受付：なし
- ★3月22日(金) 広島城南RC (休会) 受付：メルパルク広島
- ★3月27日(水) 広島陵北RC (例会変更) 受付：リーガロイヤルホテル広島
- ★3月29日(金) 広島城南RC (例会変更) 受付：メルパルク広島



- ★4月 1日(月) 東広島21RC (休会) 受付なし
- ★4月 5日(金) 広島南RC (例会変更) 受付：リーガロイヤルホテル広島
- ★4月 8日(月) 東広島21RC (休会) 受付：グランラッセ東広島

タイ北部(チェンマイ)サーフィンサティパーブ財団 贈呈式(速報写真)



2月24日(日曜日)、タイ北部のチェンマイへ行き、『タイ山岳民族家庭崩壊児童施設 ナマズ養殖池贈呈式』を行ってきます。  
 参加メンバー：神垣ガバナー補佐・本田国際奉仕委員長・小早川会長エレクト・奥本幹事  
 ご支援、宜しくお願いします。



## 西条ロータリークラブ

創立 1964年5月11日 例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分

事務局 東広島商工会議所会館3F 東広島市西条中央7-23-35

TEL(082)420-0320 FAX(082)420-0319

西条RC公式ウェブサイト <http://www.saijo-rc.jp> メール [saijorc@eagle.ocn.ne.jp](mailto:saijorc@eagle.ocn.ne.jp)

会長 山田 謙慈 副会長 廣幡 勝祐 幹事 奥本 哲之 副幹事 菅生 一郎